安寧

兵庫縣姫路護國神社社報
「安寧」第四号
発行所　兵庫縣姫路護國神社
〒六七〇―〇〇二二　姫路市本町一一八
電話　〇七九―二二四―〇八九六
安寧（あんねい…世の中が穏やかで平和なこと）

ホームページアドレス　http://www.himeji-gokoku.jp/

英霊の言乃葉

清く美しく育てて呉れ

海軍兵曹長　近藤八郎命

第六十六警備隊
昭和十九年二月六日
マーシャル群島
クェゼリン島にて戦死
長崎県出身　二十七歳

短期間の実に楽しい結婚生活であつた。厚く御礼を申す。俺も此の度は生還は期し難し。武人の妻として誇を持ち絶対に取乱してはならぬ。七転八起の精神を振ひ起し、世の荒波を乗切る様。くどい事は申さぬ。何時も申してゐた言の葉を思ひ起し、老先短き両親に仕へる様。

尚坊やの顔も見たいけど致方ない。清く美しく育てて呉れ。

男子の場合は姓名近藤征一郎。女子の場合は姓名近藤洋子と命名して呉れ。

暑さ寒さに留意され自愛専一に。

二十二日夜認ム

マスエ殿

敬具
夫より

八月十五日　六十六回目の終戦の日

英霊感謝祭・英霊顕彰の集い

八月十五日、本殿にて英霊感謝祭が執り行われ、本殿に入りきらないくらい多くの参列者が英霊に頭を垂れた。小学生の子供と一緒に参拝するお父さんの姿もあり、今後このような姿が当たり前になればよいと願う。その後、参集殿二階で英霊顕彰の集いが開催され、たくさんの人が参加された。日本のために戦ってくれた先人達は、どういう人達だったのか、どういう思いで戦地に赴き戦ったのかを今一度、考えようということで、当時のことが紹介された。

子供に参拝の作法を教えるお父さん

会場では、パラオ、ペリリュー島の戦いを中心に、日米軍の戦力差、現在も残る旧日本軍の戦車・建物、今もパラオに残る伝説の日本兵の話などがパネル展示された。

電子紙芝居「お父さんへの千羽鶴」は、特攻隊員になったお父さんの、家族に対する想いと千羽鶴に託した家族からお父さんへの想い、子供でも理解できる内容に多くの人が涙していた。英霊の言乃葉では、英霊の手紙や遺書を朗読し、当時どんな気持ちだったかを紹介。

三木英一先生（元姫路東高校長）による「終戦の詔書」の解説には多くの人が集まり、会場の椅子が足りず、立ち見の人も出るくらいだった。若い人の中には、終戦の詔書の内容を知らない人も多く、三木先生のわかりやすい説明に目から鱗だという感想をたくさんの人からいただいた。

「パラオと日本」では、パラオが当時日本国であったことや、現在もとても親日的な国であることを紹介。そしてひとり語り「パラオに散った先人達」では、史実を元にペリリュー島での日本軍とアメリカ軍の戦いを物語にし、当時の若者達が国や故郷を思いながら戦った様子を披露。兵庫県からも多くの人がパラオの戦地に赴き散華されている。名古山霊園にはその慰霊碑が建立されている。

パネル展示

最後の、ピアノとバイオリンによる生演奏では「九段の母」「暁に祈る」「海ゆかば」の順で演奏され「海ゆかば」は、参加者の皆さん自ら起立し、大合唱となった。

電子紙芝居「お父さんへ千羽鶴」

英霊感謝祭での泉宮司の挨拶

ピアノ演奏をしていた久保和紀さんは、「皆さんの熱意ある歌声が私の心に響きました。私の拙い演奏に多くの人が歌って下さったことに感激しました。」と感想をもらしていた。

その他、参加された人の感想も紹介します。

「終戦の詔書で、堪えがたきを堪えと言うところは、国民に堪えてくださいという意味かと思っていましたが、昭和天皇のお気持ちだったということが、三木先生のお話でよく理解できました。」（三十代　女性）

「玉音放送は何度聞いても涙がこぼれるのですが、三木先生の講義のお陰で、内容が耳で聞いても分かるようになりました。とてもありがたい講義でした。」（五十代　女性）

「心のこもったひとり語りを拝聴し、心が洗われるような気持ちになりました。午後の部の途中から参加しましたが、朝から参加出来なかったのが残念です。」（五十代　男性）

「ずっと歌いたかった海ゆかばを思いっきり歌うことが出来、感無量でした。」（四十代　男性）

「岡山の護國神社に参拝した後に、ドライブがてらに姫路護國神社の英霊顕彰の集いに参加しました。日本の軍歌や唱歌を私は全く知りませんが、ピアノとバイオリンが奏でるメロディと『九段の母』の歌詞が目に飛び込んで来たときには、熱くこみ上げてくるものがありました。軽い気持ちでドライブがてらに来たことを反省しました。整然とした気持ちで参加せねばならなかったのです。わずか数時間の参加でしたが、これほど充実した八月十五日は今までありませんでした。」（三十代　男性）

「今まで、教えられてきたことに疑問を持つようになりました。全てを受け入れられたわけではないですが、もう一度よく考えて整理したいと思いました。」（四十代　女性）

ピアノ：久保和紀さん　バイオリン：前川美加さん

三木先生の講義に熱心に聞き入る参加者

前川英昭さんによる「パラオと日本」の解説

「英霊の言乃葉」朗読

「海ゆかば」大合唱

特別講話「終戦の詔書」について

兵庫縣姫路護國神社崇敬奉賛会
常任理事　三木英一

八月十五日に開かれた「英霊顕彰の集い」において「終戦の詔書」について特別講話をさせて頂きました。詔書の作成過程を説明した後、詔書の内容について解説しました。

一、作成過程について

昭和二十年八月九日　鈴木貫太郎首相ら六巨頭による最高戦争指導者会議（和平か抗戦かは結論が出ず）。十日　御前会議で天皇陛下のご聖断。ポツダム宣言を条件付き（国体護持）で受け入れることを決定。迫水久常書記官長が川田瑞穂氏（早稲田大学教授、内閣嘱記）に終戦詔書の起草を依頼。十三日　川田氏が迫水氏らの意見をもとに草案に赤字を入れ、迫水氏が清書した案を、安岡正篤氏（金鶏学院・日本農士学校主宰、大東亜省顧問）に見せ、安岡氏が修正を加える。十四日　第二回御前会議で再び天皇陛下のご聖断により修正を加える。午後十一時近く、詔書渙発（国務大臣副署完了）。午後十一時五十分頃、玉音収録完了。十五日　玉音盤奪取クーデター失敗。正午から天皇陛下による玉音放送。

二、詔書の内容と安岡正篤氏の修正意見について

安岡氏は、特に草案の「朕ハ實ニ堪ヘ難キヲ堪ヘ忍ヒ難キヲ忍ヒ臥薪嘗膽為ス有ルノ日ヲ將來ニ期シ爾臣民ノ協翼ヲ得テ永ク社稷ヲ保衛セムト欲ス」の部分を、「朕ハ義命ノ存スル所堪ヘ難キヲ堪ヘ忍ヒ難キヲ忍ヒ萬世ノ為ニ太平ヲ開カント欲ス」と修正を求めた。「義命」とは、『春秋左氏伝』成公八年の「信以行義、義以成命」から取られており、良心の至上命令であって、それによって終結するというのが、天皇道の本義と考えたが、内閣がその本義を理解できずに、「時運の趨ク所」と変えてしまったのは不見識だと残念がられたと聞いている。「萬世ノ為ニ太平ヲ開カン」は、宋の学者、張横渠の言葉で、朱子編『近思録』為学類に出ている、「為天地立心、為生民立道、為去聖継絶学、為萬世開太平。」から取られている。

詔書を読みながら解釈、説明し、最後に昭和天皇のご聖断とそのお気持を拝察して、胸の詰まる思いで、通して音読させて頂きました。そして、玉音放送のCDを参加者全員で拝聴して終了致しました。参加者からは、このように「終戦の詔書」を全文読んだのも、玉音放送を全文聴いたのも初めてであったと感謝され、務めが果たせて嬉しく思いました。

朕深ク世界ノ大勢ト帝國ノ現状トニ鑑ミ非常ノ措置ヲ以テ時局ヲ収拾セムト欲シ茲ニ忠良ナル爾臣民ニ告ク

朕ハ帝國政府ヲシテ米英支蘇四國ニ対シ其ノ共同宣言ヲ受諾スル旨通告セシメタリ

抑々帝國臣民ノ康寧ヲ圖リ萬邦共榮ノ樂ヲ偕ニスルハ皇祖皇宗ノ遺範ニシテ朕ノ拳々措カサル所曩ニ米英二國ニ宣戦セル所以モ亦實ニ帝國ノ自存ト東亜ノ安定トヲ庶幾スルニ出テ他國ノ主權ヲ排シ領土ヲ侵スカ如キハ固ヨリ朕カ志ニアラス然ルニ交戦已ニ四歳ヲ閲シ朕カ陸海将兵ノ勇戦朕カ百僚有司ノ勵精朕カ一億衆庶ノ奉公各々最善ヲ盡セルニ拘ラス戦局必スシモ好転セス世界ノ大勢亦我ニ利アラス加之敵ハ新ニ残虐ナル爆弾ヲ使用シテ頻ニ無辜ヲ殺傷シ惨害ノ及フ所眞ニ測ルヘカラサルニ至ル而モ尚交戦ヲ繼續セムカ終ニ我カ民族ノ滅亡ヲ招来スルノミナラス延テ人類ノ文明ヲモ破却スヘシ斯ノ如クムハ朕何ヲ以テカ億兆ノ赤子ヲ保シ皇祖皇宗ノ神霊ニ謝セムヤ是レ朕カ帝國政府ヲシテ共同宣言ニ應セシムルニ至レル所以ナリ

朕ハ帝國ト共ニ終始東亜ノ解放ニ協力セル諸盟邦ニ対シ遺憾ノ意ヲ表セサルヲ得ス帝國臣民ニシテ戦陣ニ死シ職域ニ殉シ非命ニ斃レタル者及其ノ遺族ニ想ヲ致セハ五内為ニ裂ク且戦傷ヲ負ヒ災禍ヲ蒙リ家業ヲ失ヒタル者ノ厚生ニ至リテハ朕ノ深ク軫念スル所ナリ惟フニ今後帝國ノ受クヘキ苦難ハ固ヨリ尋常ニアラス爾臣民ノ衷情モ朕善ク之ヲ知ル然レトモ朕ハ時運ノ趨ク所堪ヘ難キヲ堪ヘ忍ヒ難キヲ忍ヒ以テ萬世ノ為ニ太平ヲ開カムト欲ス

朕ハ茲ニ國體ヲ護持シ得テ忠良ナル爾臣民ノ赤誠ニ信倚シ常ニ爾臣民ト共ニ在リ若シ夫レ情ノ激スル所濫ニ事端ヲ滋クシ或ハ同胞排擠互ニ時局ヲ乱リ為ニ大道ヲ誤リ信義ヲ世界ニ失フカ如キハ朕最モ之ヲ戒ム宜シク挙國一家子孫相傳ヘ確ク神州ノ不滅ヲ信シ任重クシテ道遠キヲ念ヒ総力ヲ将来ノ建設ニ傾ケ道義ヲ篤クシ志操ヲ鞏クシ誓テ國體ノ精華ヲ発揚シ世界ノ進運ニ後レサラムコトヲ期スヘシ爾臣民其レ克ク朕カ意ヲ體セヨ

御名御璽

昭和二十年八月十四日

各国務大臣副署

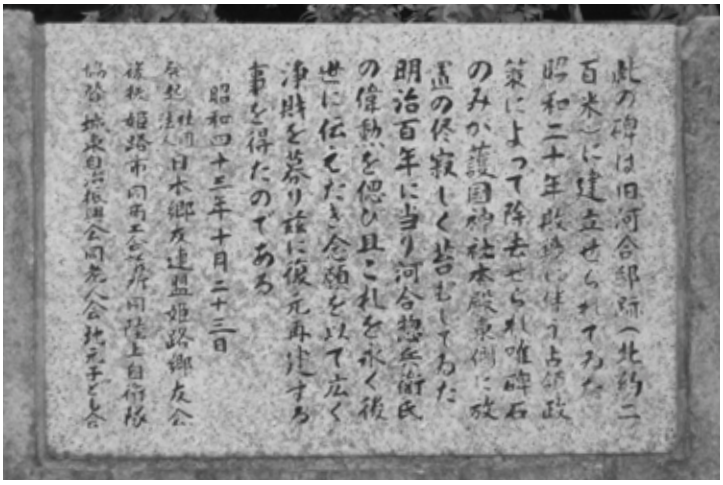
郷土の明治維新の立役者②

当社のご創建は、近代国家の幕開けである県内の明治維新の功労者を顕彰しようと始まったことに由来している。前号から明治のご祭神を紹介している。前回は河合惣兵衛宗元命を取り上げさせていただいた。

河合惣兵衛宗元命の顕彰碑（姫路市神屋町）

赤穂浪士四十七士の一人に大高忠雄（源五）がいる。大高家は平安時代から続く名門で、奥州豪族安倍貞任の一族で奥州の大高館を本拠としていたので大高氏を称した。大高忠雄（源五）は大石良雄の信頼厚く、俳句も詠んだ。討ち入りでは、吉良家の茶会の開催を突き止め、又、当日は表門組で吉良上野介の首を取っている。その子孫といわれている**大高又次郎命**は、林田藩士である。

安政五年（一八五八年）に脱藩。京都へ出て、梅田雲浜宅に住いした。安政六年には萩へ赴き吉田松陰とも出会っている。安政五年十二月、松陰は藩命により再入獄となる。松陰は獄中から伏見要駕策の指令を出す。参勤の途に上る藩主の行列を伏見で止め、これを洛内に誘引して朝廷に攘夷を誓わせようというのである。この無謀な策に久坂玄瑞、高杉晋作ら殆どの門下生が反対した。そんな中、彼は同志とともに師の計画を実行しようとしたが頓挫している。その後、安政の大獄により梅田が捕らえられたのを追って江戸に潜伏。しかし梅田は処刑され、自らにも幕府の追捕が迫ったため、江戸を脱出し、京都の長州藩邸に逃げ込む。その後武具・兵器の調達を担当するなど尊皇攘夷活動を続けた。



上記碑再建の事由を記してある

元治元年（一八六四年）六月五日、義弟・忠兵衛とともに池田屋事件に遭遇。奮戦むなしく新選組によって討たれた。享年四十二歳。当社祭神名簿には京都三條傍ノ旅舎ニテ戦死贈正五位と記載がある。

大高又次郎命の義弟**大高忠兵衛命**は、常城広介の次男で林田藩郷士。十四歳のときに甲冑職人・大高義郷の養子となる。のち姫路城下に移り、志士と交流が始まる。嘉永元年（一八四八年）、梅田雲浜のすすめで上洛。衣棚押小路入下妙覚寺町で甲冑商「大鷹屋」を営みつつ、義兄又次郎とともに、諸藩の藩邸に出入りして情報収集をするなどの政治活動に奔走する。安政の大獄の際に一時京を離れたが、潜伏し志士の武器・甲冑調達にも貢献。元治元年（一八六四年）六月五日、池田屋事件に居合わせ、新選組によって捕縛され、七月四日に六角牢で獄死。享年四十二歳。当社祭神名簿には獄中ニ於イテ死贈従五位と記載がある。

「英霊顕彰の集い」に列して

兵庫神社庁姫路支部長　三木通嗣

所謂「終戦」の日、八月十五日、護国神社で催された「英霊顕彰の集い」に出席させて頂きました。

当日は、午前中姫路市戦没者追悼式に参列しておりましたので、午前十時から御齋行になられました、英霊感謝祭には参列がかないませんでしたが、午後二時からの三木先生の『詔書』についての御講義から拝聴させて頂きました。

『養老令』の中の「公式令（くしきりょう）」の義解に、「詔書勅旨と謂うも同じくこれ綸言なり」とありますが、勅語・勅旨が国務大臣の副書もなく、天皇様が親しく国民に語りかけられるもの、御製と同じように大御心を拝するものであるのに対して、詔書は「皇室ノ大事ヲ宣誥シ及大権ノ施行ニ関スル」ことを宣誥（せんこう…天皇がその意を公布すること）される、対外的には公式な文書でありつつ、陛下の御意志も窺うことの出来るものであると考えますが、宣戦布告の詔書には「東亞ノ安定ヲ確保シ以テ世界ノ平和ニ寄與スルハ丕顯ナル皇祖考不承ナル皇考ノ作述セル遠猷ニシテ朕カ拳々措カサル所而列國トノ交誼ヲ篤クシ万邦共榮ノ樂ヲ偕ニスルハ之亦帝國カ常ニ國交ノ要義ト爲ス所ナリ今ヤ不幸ニシテ米英兩國ト釁端ヲ開クニ至ル洵ニ已ムヲ得サルモノアリ豈朕カ志ナラムヤ」と述べられ、明治天皇の御製を二度口遊まれ、和平への道を模索しつつも、開戦とならざるを得なくなった御苦衷が窺い知れます。

「尚交戰ヲ繼續セムカ終ニ我カ民族ノ滅亡ヲ招來スルノミナラス延テ人類ノ文明ヲモ破却スヘシ斯ノ如クムハ朕何ヲ以テカ億兆ノ赤子ヲ保シ皇祖皇宗ノ神靈ニ謝セムヤ」、「今後帝國ノ受クヘキ苦難ハ固ヨリ尋常ニアラス（略）堪ヘ難キヲ堪ヘ忍ヒ難キヲ忍ヒ以テ萬世ノ爲ニ太平ヲ開カムト」発せられた『ポツダム宣言受諾詔書』からは、戦いに斃れた者、その遺族への労りの御心が拝せられます。

世界の国々と友好をはかりつつ、「國安かれ、民安かれ」と願われる大御心は、御歴代を通じて変わることなく、皇室の伝統であります。

この事は、奇しくも今次の大震災においても明らかになりました。救援活動に支障をきたさぬように御配慮になられながら、幾度も、被災地へ御激励の思召しで赴かれました。これは先帝様の戦後の国内御巡幸に倣われたものでありましょう。御父君がマイクの前に立たれたように、三月十六日ビデオメッセージというかたちで、親しくお言葉を賜りました。お言葉の放送中に地震速報が出た時には、そちらを優先するようにとの、どこまでも国民の事を一番に考えられてのことで、有難い極みであります。

プラトンは、その著書『国家』の中に、理想国家は君主国であり、その君主は哲人でなければならない、と説いておりますが、「自分の利害を考えず、国家と国民のことだけを考える哲人」、まさに天皇様に他ならないでしょう。

御懇篤な解説を頂きながら、詔書・勅語を素直に拝誦して、大御心に添うように努め、護国の為に身を捧げられた英霊を称えること、これこそが國を守り、民族の心を一つにするものとの考えを強く致しました。

「海ゆかば」を歌い、「集い」は終わりましたが、この催しに若い方々が多数参加しておられたのに、正直驚きました。その上この企画が、崇敬奉賛会の会員とは云え、お若い方からの申し出により実行されたと聞き、宮司様の御英断もさることながら、年若くとも国思い英霊を称える人の多くあることを、嬉しく頼もしく感じました。

冒頭、所謂「終戦の日」と書き出しましたが、八月十五日は激しかった戦闘行為が停止した時であり、我国はその時から「占領下」におかれて、サンフランシスコ講和条約が締結されるまで、別の苦難の道を歩むこととなりました。

サンフランシスコ講和条約が締結された日が日本の終戦でしょうが、本当の終戦・独立は、現憲法が改正され、民族本来の姿を尊重した「日本國憲法」が発布した日であると考えております。

大伴家持の『詔書を賀ぐ歌一首』に続く反歌三首の内一首

須賣呂伎能　御代佐可延牟等
阿頭麻奈流　美知能久夜麻爾
金花佐久

すめろぎの　御代さかえむと
あずまなる　みちのくやまに
金花さく

聖壽の萬歳と大御代の弥栄を祈りまつる。

（廣畑天満宮　宮司）

日系アメリカ人から学ぶ「国家と国民」

兵庫縣姫路護國神社崇敬奉賛会
運営委員　深田真史

今から五年前、当時アメリカで暮らしていた私は、ロサンゼルス・リトルトーキョー（日系人街）の一角にある全米日系人博物館を訪れた。そこで見た、天井まで高く積まれた古びたスーツケースの数々が今でも印象に残っている。日系人と言ってもアメリカ国民で、アメリカ社会を支える一員であるが、ルーツは同じ日本人である。異国の地で触れた彼らの歴史が、なんとなく私たちと同じ歴史のような感覚になったことを思い出す。

明治維新後、多くの日本人がアメリカへ移り住んだ。現地で偏見や差別と向き合いながらも、汗水流して過酷な労働に励み、日系二世となる子供たちの教育には熱心だった。彼らは、美しい日本人の姿を体現していたに違いない。しかし、いわゆる「パールハーバー」の後、彼らの暮らしは一変した。

一九四二年二月、フランクリン・ルーズベルト大統領が「大統領令第九〇六六号」に署名したことで、アメリカ本土に住む十一万人以上の日系人は「敵性外国人」と見なされ、理不尽にも立ち退きを命じられた。だが、そのうち約七割の日系人がアメリカ国民であった。彼らの財産は安く売られ、荷物はスーツケースのみで、荒野につくられた強制収容所に送られることになった。一方で、日本と同じ枢軸国側だったドイツ系、イタリア系のアメリカ人たちは強制収容されることはなかった。この裏には、日系人に対する明らかな人種差別があり、戦後、レーガン大統領は強制収容を謝罪し、彼らの名誉は回復されている。

このような状況で、アメリカに生まれ育った日系人の青年（二世）たちは、米国への忠誠を示すため、米軍へ積極的に志願し、やがて日系人による部隊、第四四二連隊を編成した。この部隊はアメリカ国内では有名で、史上最も多くの勲章を受けた部隊である。彼らはヨーロッパの戦地に送られ、「Go for Broke（当たって砕けろ！）」を合言葉に、数多くの死傷者を出しながらも勇敢に戦った。ローマへの進撃やドイツのユダヤ人強制収容所の解放、フランスでドイツ軍に包囲された別部隊の救出などの活躍ぶりは、彼らを語るとき欠かすことができない。

自らの血をもって、自国への忠誠心を証明した日系アメリカ人。彼らの苦難の歴史は、国家や国籍の重み、勇気や献身の意味を、私たちに伝えているように思う。翻って、私たち日本人は「国家、国民とは何か」という本質的な問いかけに、いま真正面から向き合うときではないだろうか。

（加西市議会議員）

語り継ぐことが大切

兵庫縣姫路護國神社崇敬奉賛会
理事　田中常生

戦後六十六年を迎えた今日。日本では戦争を知らない世代が人口の七割を占め、戦争体験者は少なくなりつつあります。しかし、世界に目を向ければ未だに紛争が絶えません。日本も例外ではなく、北方四島や尖閣諸島等、日本固有の領土がおびやかされ、さらには北朝鮮による韓国への一連の軍事行動と、対岸の火事では済まされません。戦争の悲惨さ、愚かさを一番知っている我々遺族が、ここで声を大にして世界の恒久平和を訴えて行かねばなりません。

国内では、総理・閣僚の靖国神社参拝はしないと明言し、靖国神社に眠るご英霊に対する姿勢は、誠に許しがたく残念でなりません。日本の安寧と繁栄を願って犠牲となられた戦没者とその遺族の思いに応えるために、総理・閣僚が靖国神社に参拝することは当然の責務であります。また、唯一の戦没者追悼施設である靖国神社に代わる新たな追悼施設新設構想はもってのほかで、断固として阻止しなければなりません。

東日本の大震災には心よりお悔やみと励ましを申し上げます。内外の情勢はますます厳しく、多事多難な事が予想されますが、本来あるべき姿を今こそ目先の事にとらわれず、戦争の記憶が風化されつつある今、我々戦没者遺族はこれからも、戦争体験を次の世代に語り継いで行かねばなりません。最後に英霊の顕彰と戦没者遺族の福祉向上のため変わらぬご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

（神崎郡遺族会会長）

日誌抄

二十三年七月～二十三年十一月

平成二十三年

七月　三日　波賀町慰霊祭
七月　八日　兵庫県神社庁会計監査へ出向
七月　十日　兵庫県神社庁神道連続講座①生田神社
七月十三日　安寧校正委員会
七月十七日　三木市長田運輸で講話へ出向
七月十八日　日本会議兵庫県本部総会　湊川神社
七月二十日　安寧校正委員会
七月二十三日　日本会議中西播磨支部連続講座④
七月二十四日　兵庫県神社庁神道連続講座②生田神社
七月二十五日　婚礼業者懇談会
七月二十六日　兵庫県神社庁理事会・協議委員会
七月二十七日　近畿護国神社会
七月二十九日　兵庫県神社庁合同協議会
八月　二日　東播地区現任神職研修会開校式へ出向
八月　六日　英霊にこたえる会西播正式参拝
八月　八日　現任神職研修会（総社）
八月　九日　現任神職研修会（総社）
八月　十日　城巽生涯クラブ清掃奉仕・FM元気収録へ出向
八月十四日　兵庫県神社庁神道連続講座③生田神社
八月十五日　英霊感謝祭・英霊感謝の集い
八月二十一日　兵庫県神社庁神道連続講座④生田神社
八月二十二日　崇敬奉賛会第五回運営委員会
八月二十六日　尼崎支部神宮大麻推進会議へ出向
八月二十七日　日本会議中西播磨支部総会・講演会
九月　二日　清交倶楽部ヴェスパ婚礼打合せ会
九月　四日　崇敬奉賛会第六回運営委員会
九月　六日　兵庫県神社関係者大会於：明石
九月　七日　スローフードな縁日境内
九月十八日　市川町慰霊碑前祭　現地
九月二十一日　西宮神社奉祝祭参列
九月二十二日　西宮神社例祭参列
九月二十九日　兵庫県神社庁役員会へ出向
十月二十一日　宍粟市千種町慰霊祭
十月二十五日　佐用町徳久地区慰霊祭・兵庫県神社庁大麻頒布式
十月二十六日　佐用町中安地区慰霊祭
十月二十七日　佐用町西庄地区慰霊祭
十月二十九日　日本会議中西播磨支部連続講座⑤
十一月　二日　秋季大祭
（毎月一日、十五日　月次祭斎行）

美しき白鷺宮の結婚式

白鷺宮 参集殿

ご親族のみでのご会食から
ご披露宴（～60名様）まで
専任プランナーが当日まで
サポートいたします

無料相談会
開催中
＊予約制＊

【婚礼受付相談室】
TEL. 079-224-0559
受付時間 10:00～19:00（火曜定休）
E-mail. info@shirasaginomiya.com
※詳しくは婚礼専用HPにて
http://www.shirasaginomiya.com/